

# 第 74 回歴史探訪の会「橿原の古墳とシルクロード」

実施日： 令和 2 年 9 月 16 日(水)

場所： 奈良県・橿原市

案内人： 内海春樹

想定外のコロナ騒動で歴史探訪会も 3 月から予定していた例会が全て中止になりました。久しぶりの今回の例会はコロナ対策として

- ・電車のラッシュを避けるため集合時間を半時間遅らす。
- ・各自、朝の体温が37度以下である事を確認して参加する。
- ・常時マスクを着用する。
- ・集合場所で手の消毒をおこなう。
- ・歴史博物館などの建物には入らない。等を条件として実施しました。

コース： 橿原神宮前駅 ～ 益田の岩船石 ～ 倭彦命墓 ～ シルクの杜(昼食) ～ 千塚古墳 ～ 益田池堤跡 ～ 久米寺 ～ 橿原神宮前駅

今回は奈良・橿原にある様式の異なった“古墳”を巡り、それぞれの時代や人物像と、遠くペルシャからシルクロードを歩いてこの地にたどり着いた宝物などを学びます。

集合場所で 16 名全員が手の消毒を行い、時間短縮のためタクシーに分乗、最初の益田の岩船石へ向かいました。岩船石は小高い丘の上にある為、結構急な階段と坂道を約 10 分登ります。すると竹林の中に突然巨大な岩が現れます。

## 1. 益田の岩船石

東西約 11M、南北約 8M、高さ約 4.7M の台形状の硬質の岩で、東西の側面はほぼ垂直に切り立っている。上部に 1 辺 1.6 メートル深さ 1.3 メートルの方形の穴が二つくり抜かれている。岩の重さは約 500～600t と推測される。飛鳥の巨石群(亀石・酒船石など)の中でも最大の石造物で、江戸時代には観光名所として見学者も多かったようである。

岩の加工法や穴の尺などに古墳時代最末期の特徴が見られるため、7 世紀頃の建造と推定される。用途として、石碑の台石説・ゾロアスター教徒の拝火台(松本清張作の小説『火の路』)などあるが、最有力説は“横口式石槨”である。参加者は巨石のそばへ行き、見上たり、削った跡を触りながら実感していました。



岩船石へ向かって登ります



足元に気を付けながら下山、しばらく住宅街を歩くと遠く金剛葛城山系を望む田園風景が現れた。途中大きなお堀を有する第 28 代宣化天皇陵古墳を見る。しばらくすると畑の先に大きな森と鳥居が見えてくる。



## 2. 倭彦命墓

一辺 85M、高さ 15M の全国最大の方墳である。『日本書紀』によれば、第 10 代崇神天皇と皇后の御間城姫との間に生まれた皇子である。同母兄の垂仁天皇 28 年 10 月 5 日に倭彦命は薨去し、11 月 2 日にここに葬られた。その際、近習は墓の周辺に生き埋めにされたが、数日間も死なずに昼夜呻き続けたうえ、その死後には犬や鳥が腐肉を漁った。これを哀れんだ天皇は殉死の禁令を出したという。



垂仁天皇 32 年 7 月 6 日、皇后の日葉酢媛命(ひばすひめのみこと)が薨去した際、天皇は野見宿禰の進言に従って人・馬などの土物(はにもの)を墓に立てて代替とすることを命じ、以後これが埴輪の慣例になった。

日本における殉死に関する記録としては、「魏志倭人伝」に卑弥呼死去の際に「奴婢百余人」の殉葬が書かれている。豊臣秀吉、徳川秀忠、家光が亡くなった時にも元老中や近習などが切腹したと記録にある。近年でも明治天皇が崩御された時、乃木希典夫妻が自死、昭和天皇の際にも元軍人など数名が後を追っている。

### 3. シルクの杜(檀原市新沢千塚公園) 昼食

市民の憩いの場として、新沢千塚古墳群の中に設けられた。歴史博物館や、ジム・温泉・プール等の他、ミニ道の駅や龍の広場等がある。



近くの奈良芸術短期大学の学生が、4 世紀ころの風景を壁画として描いたもの

### 4. 新沢千塚古墳群

新沢千塚は総数約 600 基からなる古墳群で、日本を代表する群集墳(ぐんしゅうふん)でもあります。新沢千塚に古墳が造られ始めたのは 4 世紀の終わり頃、今から 1600 年ほど前です。その後、6 世紀の終わり頃までの約 200 年にわたって古墳が造られ続けました。1960 年代、古墳群全体の約 2 割にあたる約 130 基の古墳の発掘調査が行われ、この調査によって多くの成果があがりました。遠くペルシャや中国、朝鮮半島からもたらされた副葬品が出土した 126 号墳の調査はその代表的なものです。

調査の成果をうけ、新沢千塚は 1976 年(昭和 51)に国の史跡に指定されました。





ペルシャから渡ってきたガラス製のお椀やお皿の他、金・銀・ガラス・ひすい等の装飾品が遺骨に着いたまま出土した。一部は国の重要文化財として、東京国立博物館に展示されている。美しい畝傍山を見ながら沢山の古墳が並ぶ散策路を進むと、まるでモヒカン刈りのような堤防が見えてきた。

## 5. 益田池堤跡

平安時代、大和の国は水不足で人を養うだけの作物が収穫できず、821年に空海が改修した讃岐国(香川県)の満濃池の技法を取り入れて、825年この地に灌漑池を作った。面積は40ヘクタール(0.4平方キロメートル)であったとされる。堤防の長さ約200メートル、幅約30メートル、高さ約8メートルであり、満水時の貯水量は140万トンから180万トンと推測されている。

榎原考古学研究所附属博物館には、1961年(昭和36年)の川底改修の際に2か所で出土した木製の樋が保存展示されており、「益田池の堤 附樋管」として、1980年(昭和55年)3月28日、奈良県の指定文化財の史跡に指定されている。



## 6. 久米寺

仁和寺別院真言宗の寺院である。7世紀後半、推古天皇の勅願により、聖徳太子の弟にあたる来目皇子が眼病全快を感謝して建立したと伝わる。一方で、空中を飛んでいるときに川で洗濯をする娘の太股に見とれて墜落した久米仙人によって創建されたという伝説もある。

本尊薬師如来は眼病に効くとされる。京都仁和寺から移築された多宝塔(重要文化財)は、桃山様式を残している。かつては大寺院だったということが、残された五重塔の礎石や瓦からも伺い知ることができる。



当日の降水確率が40%との予報だったが、心配した雨にも合わず、秋の気配を感じながらの例会となった。最後に檀原神宮の一の鳥居で拝礼し散会とした。

